

【参考様式－５】個別施設計画（橋梁）

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川（道路）名	造成事業	施設の場所	集落コード
姥仁田橋	平成6年度	秩父市	農道姥仁田線 千鹿谷川	新山村振興農林漁業対策事業	秩父市上吉田	1120710005

道路橋示方書	平成6年2月版	橋の等級（設計荷重）	A活荷重	特記事項	水道管添加
--------	---------	------------	------	------	-------

施設概要	施設の規模	橋長（支間長）	25.50m(25.00m)		幅員（車道幅員）	5.00m(5.00m)		
	施設の構造	上部工型式	鋼橋（単純合成鉄桁）					
			鋼製（使用鋼材）	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無		
			SS400, SM490Y	有	支承版支承	無		
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎		
	橋脚工型式	－		海岸からの距離	80km			
計画策定目的	新山村振興農林漁業対策事業によって整備され、秩父市が管理している姥仁田橋は、26年余り経過している。姥仁田橋は、平成6年2月版の道路橋示方書に準拠し設計されたものであり、現在の耐震基準を満たしていないため、いずれ耐震化対策が必要である。また、一部損傷が見られることから、詳細点検を実施し点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。							
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後26年経過しているが、大きな損傷も確認されなかった。山間部に位置することから土砂堆積防止等の定期的な維持管理を行う必要がある。						
	詳細調査（点検）	伸縮装置ゴムの劣化および一部欠損が確認された。 部分的に鋼部材の防食塗膜の剥離が確認された。					判定区分	I
	劣化原因（推定）	確認された損傷は、立地環境や気候が原因と推測される。						
長寿命化対策概要	対策工法（案）	【老朽化対策】 伸縮装置止水工、橋梁塗装工 【耐震化対策】 現行の道路橋示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。						
	対策時期（案）	【老朽化対策】 漏水・滞水は損傷進行にもつながることから早期に対策することが望ましい。 【耐震化対策】 路線の重要度および他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。						
	対策費用（参考）	【老朽化対策】 伸縮装置止水工 5,000千円、橋梁塗装工 4,000千円 【耐震化対策】 落橋防止工（2基） 3,000千円						
管理方法	管理方法	その他部材ではあるが、老朽化対策として伸縮装置のゴム材取替を行い、定期的に点検および維持工事を適切に行うことで予防保全的に管理していくことが望ましい。						

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	・・・
対策費用（長寿命化）（百万円）										
対策費用（更新）（百万円）										
対策の内容・時期	定期点検					定期点検				伸縮装置（止水工） 鋼部材（塗装塗替）

長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な補修が可能となる。

【参考様式－５】個別施設計画（橋梁）

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
石間戸向橋	昭和53年度	秩父市	農道石間戸向線 吉田川	県費単独土地改良事業	秩父市上吉田	1120710001

道路橋示方書	昭和48年2月版	橋の等級(設計荷重)	2等橋(TL-14)	特記事項	-
--------	----------	------------	------------	------	---

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	35.20m(34.40m)		幅員(車道幅員)	3.00m(3.00m)		
	施設の構造	上部工型式	鋼橋(単純合成鈑桁)					
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無		
		SS41, SM50Y	有	線支承	無			
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎		
	橋脚工型式	-		海岸からの距離	80km			
計画策定目的	県費単独土地改良事業によって整備され、秩父市が管理している石間戸向橋は、42年余り経過している。石間戸向橋は、昭和48年2月版の道路橋示方書に準拠し設計されたものであり、現在の耐震基準を満たしていないため、いずれ耐震化対策が必要である。また、一部損傷が見られることから、詳細点検を実施し点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。							
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後42年経過している。コンクリート部材に一部損傷がみられる。支承部周辺に土砂堆積や植物が絡みついており、土砂堆積防止等の定期的な維持管理を行う必要がある。						
	詳細調査(点検)	終点側橋台(胸壁下方)に1～5mm程度のうきが確認された。床版に剥離・鉄筋露出が1ヶ所確認された。部分的に鋼部材の防食塗膜の剥離が確認された。					判定区分	Ⅱ
	劣化原因(推定)	橋台および床版のコンクリート部材の損傷は、地震等の大きな外力によるものが原因と推測される。						
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 橋梁周辺環境整備、橋梁塗装工、橋台表面被覆工(ひびわれ補修工)、床版断面修復工 【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。						
	対策時期(案)	【老朽化対策】 支承部周辺の土砂詰まりは機能障害に至る場合があり早期に対策することが望ましい。 【耐震化対策】 路線の重要度および他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。						
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 橋梁塗装工 5,500千円、橋台表面被覆工(ひびわれ補修工) 500千円、床版断面修復工 800千円 【耐震化対策】 落橋防止工(2基) 3,000千円						
管理方法	管理方法	老朽化対策として、橋梁周辺環境の整備(堆積土砂、草木の伐採等)を行い、定期的に点検および維持工事を適切に行うことで予防保全的に管理していくことが望ましい。						

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	・・・
対策費用(長寿命化)(百万円)										
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期	定期点検					定期点検				橋台(補修工) 床版(補修工) 鋼部材(塗装塗替)

長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な補修が可能となる。

【参考様式－５】個別施設計画（橋梁）

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
兎田橋	平成5年度	秩父市	農道北新線 土橋沢	県費単独土地改良事業	秩父市下吉田	1120709006

道路橋示方書	平成2年2月版	橋の等級(設計荷重)	2等橋(TL-14)	特記事項	－
--------	---------	------------	------------	------	---

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	26.00m(25.24m)		幅員(車道幅員)	5.00m(5.00m)		
	施設の構造	上部工型式	コンクリート橋(PCポストテンション単純T桁)					
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無		
		SWPR7A 12S12.4 SWPR19 1S19.3	無	ゴム支承	無			
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎		
	橋脚工型式	-		海岸からの距離	80km			
計画策定目的	県費単独土地改良事業によって整備され、秩父市が管理している兎田橋は、27年余り経過している。兎田橋は、平成2年2月版の道路橋示方書に準拠し設計されたものであり、現在の耐震基準を満たしていないため、いずれ耐震化対策が必要である。また、一部損傷が見られることから、詳細点検を実施し点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。							
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後27年経過しているが、橋梁自体には大きな損傷も確認されなかった。しかし、終点側橋台基礎周辺地盤の変状が確認され橋梁構造の安定性が危惧される。						
	詳細調査(点検)	遊間(橋台とT桁接合部)ゴムの劣化・欠損が確認され、これに伴い胸壁に漏水も確認された。路肩および排水桝に土砂詰まりが確認された。終点側橋台基礎周辺地盤の崩落が確認された。					判定区分	Ⅱ
		劣化原因(推定)	周辺地盤の崩落は、降雨などの影響で水分を多く含んでいることが原因と推測される。					
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 土砂撤去、遊間止水工(地覆ジョイント部) 【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。						
	対策時期(案)	【老朽化対策】 下部工に確認された漏水は損傷進行にもつながることから早期に対策することが望ましい。 【耐震化対策】 路線の重要度および他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。						
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 遊間止水工(地覆ジョイント部) 2,000千円 【耐震化対策】 落橋防止工(2基) 3,000千円						
管理方法	管理方法	老朽化対策として、遊間の非排水化を行い、定期的に点検および維持工事を適切に行うことで予防保全的に管理していくことが望ましい。 なお、橋台周辺の護岸対策が必要。						

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	・・・
対策費用(長寿命化)(百万円)										
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期	定期点検					定期点検				遊間(止水工)

長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な補修が可能となる。

【参考様式－５】個別施設計画（橋梁）

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
無名橋1	平成元年度	秩父市	農道国替線	県単独補助事業	秩父市大滝	1120711013

道路橋示方書	不明	橋の等級(設計荷重)	不明	特記事項	－
--------	----	------------	----	------	---

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	20.95m(20.10m)		幅員(車道幅員)	3.00m(3.00m)		
	施設の構造	上部工型式	鋼橋(単純鈑桁)					
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無		
			不明	有	沓座モルタルベースプレート	無		
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎		
	橋脚工型式	壁式橋脚		海岸からの距離	90km			
	計画策定目的	秩父市が管理している無名橋1は、31年余り経過している。無名橋1は、平成元年度(1989年)に建設されたものであり、現在の耐震基準を満たしていないため、いずれ耐震化対策が必要である。また、一部損傷が見られることから、詳細点検を実施し点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。						
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後31年経過しており、各部材に損傷が確認される。支承部に滞水・土砂堆積が確認されており、維持管理を行う必要がある。						
	詳細調査(点検)	防護柵の損傷が確認された。鋼部材に腐食が確認された。支承部および下部工に滞水が確認された。橋台に遊離石灰を伴うひびわれが確認された。						
							判定区分	Ⅱ
	劣化原因(推定)	支承部および下部工に確認された滞水は、排水対策されていないことが原因と推測される。						
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 排水対策工, 防食工(鋼材腐食部), ひびわれ注入工 【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。						
	対策時期(案)	【老朽化対策】 下部工に確認された漏水・滞水は損傷進行にもつながることから早期に対策することが望ましい。 【耐震化対策】 路線の重要度および他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。						
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 排水対策工 5,000千円, 防食工(鋼材腐食部) 3,500千円, ひびわれ注入工 500千円 【耐震化対策】 落橋防止工(4基) 5,000千円						
管理方法	管理方法	老朽化対策として、排水対策を行い、定期的に点検および維持工事を適切に行うことで予防保全的に管理していくことが望ましい。						

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	・・・
対策費用(長寿命化)(百万円)										
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期	定期点検					定期点検				←→ 路面(排水対策工) 鋼部材(防食工) 橋台(補修工)

長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な補修が可能となる。

【参考様式－5】個別施設計画（橋梁）

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
無名橋2	平成2年度	秩父市	農道国替線	県単独補助事業	秩父市大滝	1120711013

道路橋示方書	不明	橋の等級(設計荷重)	不明	特記事項	－
--------	----	------------	----	------	---

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.44m(14.60m)		幅員(車道幅員)	3.40m(3.40m)		
	施設の構造	上部工型式	鋼橋(単純鈑桁)					
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無		
			不明	有	沓座モルタル	無		
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎		
	橋脚工型式	壁式橋脚		海岸からの距離	90km			
計画策定目的	秩父市が管理している無名橋2は、30年余り経過している。無名橋2は、平成2年度(1990年)に建設されたものであり、現在の耐震基準を満たしていないため、いずれ耐震化対策が必要である。また、一部損傷が見られることから、詳細点検を実施し点検結果に応じて長寿命化計画を策定する。							
調査結果概要	現地調査	本橋梁は建設後30年経過しており、各部材に損傷が確認される。支承部に滞水・土砂堆積が確認されており、維持管理を行う必要がある。また、橋脚基礎周辺地盤の変状が確認され橋梁構造の安定性が危惧される。						
	詳細調査(点検)	鋼部材に腐食が確認された。支承部および下部工に滞水が確認された。沓座モルタルにひびわれが確認された。橋台にひびわれが確認された。橋脚基礎周辺地盤の崩落が確認された。					判定区分	Ⅱ
	劣化原因(推定)	支承部および下部工に確認された滞水は、排水対策されていないことが原因と推測される。周辺地盤の崩落は、湧水が原因と推測される。						
長寿命化対策概要	対策工法(案)	【老朽化対策】 排水対策工, 防食工(鋼材腐食部), 沓座打ち替え工, ひびわれ注入工 【耐震化対策】 現行の道路示方書に基づき、落橋防止構造を設置する。						
	対策時期(案)	【老朽化対策】 下部工に確認された漏水・滞水は損傷進行にもつながることから早期に対策することが望ましい。 【耐震化対策】 路線の重要度および他橋梁と比較して優先度を考慮の上、適時、耐震化対策を実施する必要がある。						
	対策費用(参考)	【老朽化対策】 排水対策工 5000千円, 防食工(鋼材腐食部) 1,500千円, 沓座打ち替え工 500千円, ひびわれ注入工 500千円 【耐震化対策】 落橋防止工(4基) 5,000千円						
管理方法	管理方法	老朽化対策として、排水対策を行い、定期的に点検および維持工事を適切に行うことで予防保全的に管理していくことが望ましい。 なお、橋脚下の湧水対策が必要。						

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	・・・
対策費用(長寿命化)(百万円)										
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期	定期点検					定期点検				←路面(排水対策工) 鋼部材(防食工) 沓座(打ち替え) 橋台(補修工)→

長寿命化計画による効果

○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な補修が可能となる。
